

株式会社ジェイコム東京 放送番組審議会 概要

平成 23 年度の放送番組審議会は 2012 年 3 月 30 日(金)にジェイコム東京 東エリア局で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

ご 出 席

朝 倉 洋 一 様	朝 比 奈 愛 郎 様	栗 原 ア ヤ 子 様
関 口 和 幸 様	高 橋 政 幸 様	宮 澤 誠 一 様

ご 欠 席 (委任状受領)

赤 岩 直 様	秋 山 欣 也 様
---------	-----------

審議会会長選任

委員の互選により会長に宮澤委員、副会長に朝倉委員がそれぞれ就任した。

事業者側から現況報告及び放送法改正、J:COM チャンネルの報告があった。

【質疑応答・意見交換】

(テロップとデータ放送について)

委員 他の行政の広報番組は、番組ごとにロゴタイプを作り、ディテールにこだわっているような感想を持った。『ウィークリーすみだ』についても改良していきたいと思う。テロップはイメージを遡及する重要なツールなので、表現の仕方をもっと工夫してほしい。データ放送はかなりきめ細かいものになっている。民放には限界があるので、J:COM チャンネルには“かゆいところに手が届く”細かな地域情報を発信してほしい。議会でもデータ放送の充実に期待が持たれている。

(震災時の対応と広報番組の放送時間帯について)

委員 全体的なところでは、J:COM のさまざまな取り組みに改めて感謝したい。地域ニュース情報番組『むさしのウエスタン』をよく視聴している。

練馬区からはふたつの質問がある。ひとつ目は震災時の対応について。さまざまな媒体を使って情報発信することが課題となっているので、データ放送は早い時期にはじめていきたい。区民が一番情報を得るのはテレビ(被災地ではラジオ)になるかと思う。今後、被災地になった際、どうかたちで情報発信していくのか、年齢層に合わせた媒体を揃えていきたいので、J:COM と相談してすすめていきたい。ふたつ目は練馬区情報番組である『ねり

まほっとライン』の件。区政モニターの懇談会をした際、広報やホームページ経由で区民の方から次の意見があった。「9時、12時、20時の時間帯はいわば視聴しやすいゴールデンタイムなので、広報番組を見ようと思っても、J:COM チャンネルなかなか合わせられない。」これは辛口の意見だが検討や見直しが必要かと思う。

（『すぎなみニュース』のありかたについて）

委員 『すぎなみニュース』においては、広報誌、ホームページ、CATVの各媒体の相互的なPRがこれまで欠けていたのかなと感じる。もっと地域の方の活躍を紹介することで、J:COM チャンネルや『すぎなみニュース』という番組の存在感のボトムアップをしていく必要がある。そうすることで放送時刻にチャンネルを合わせてくれることになると思う。

震災時には、東京エリアの大きな情報はNHKや民放で伝えられていたが、杉並区や練馬区の情報や区境を含めたトータルのきめ細かい情報や対策を伝えられるのは J:COM チャンネルだと思う。今後も様々な連携をとらせていただきたい。

杉並区のPRとなってしまうが、4 月から新たな基本構想のひとつとして情報政策課を設ける。これは、広報課とは別に区政全体を俯瞰して、ほしいときにほしい人に情報が届くような仕組みを作ることが目的である。この永遠のテーマの実現にむけてご意見やご議論をいただきたいと思っている。また、荻窪駅に産業センターができるので、産業や観光の発信についても活用させていただきたい。

（災害時のありかたについて）

委員 顧客の立場としてお願いがある。昨年の東日本大震災をきっかけに全国民が家族の絆や地域のつながりを強く感じた。個人的にはJ:COMを身近な存在としてとらえている。自分の街がどうなっているのかを伝えることは、多くの命を救うことといってもいい。特別な番組にすぐに切り替えられるよう体制も大事だと思う。また孤立した高齢者の時代となっている。近所とのコミュニケーションや絆づくりとして地域情報の提供を重要視させていただきたい。J:COM には今まで以上にずっと頼れる存在でいてほしい。

（広報番組の放送時間帯について）

委員 番組審議会委員を 7 年務めているが、その間に確実に進化を遂げていると感じる。『ぶらかるちゃ』は、テレビ東京の『アド街ック天国』よりも濃い内容であるように思う。自分のような世代が楽しめる番組として『街の記憶』が挙げられる。

J:COM の地元密着の姿勢は強みであり、見ている方も心地よく感じる。行政の広報番組に関しては、平日だとサラリーマンは家に寝に帰るだけになっている。広報誌やインターネットを見ているがTVも随時見ておきたい。放送時間帯もサラリーマンが帰宅してから視聴できるように考慮していただきたい。番組の更新頻度についてももっと頻繁にしてほしい。データ放送はありがたいので、はやく実現してほしい。

(番組制作について)

委員 番組を作る方の立場から意見を述べたい。ケーブルテレビは行政とつながりがあると思うが、地域の歴史の話や古い町並みなどのフィルムやビデオが保管されていると思う。それらを活用して、今と過去を比較する作り方をしていけば視聴者の心をつかむもの、興味がわくものが出来ると思う。即時性もいいかも知れないが、もっと地域を活性化させる手段として検討してほしい。既に文京区や北区で取り組みが始まっている。

委員 温故知新というように、若い世代に昔のことを発見させるいい機会になる。語り伝えられないものを映像で紹介してほしい。番組に興味深くみているのでたくさん作ってほしい。

事業者 『まちの記憶』はそのようなコンセプトで始めた番組である。行政はアーカイブがあると聞いているので今後活用できたらよいと思う。

委員 練馬区はビデオ練馬として記念行事を撮り続けている。

事業者 『まちの記憶』は去年の10月から始まった番組だが、ご意見をもとにこれから行政の協力をいただき取り上げていきたい。

委員 教育学校のあり方は地域で変わっている。なかなか番組として視点がいかない部分である。ジェネレーションにあった番組や現実を取り上げた番組を期待する。

事業者 視聴者層は常に意識している、4月からはもっと深掘りしていく予定である。行政批判ではなくTBSの「噂の現場」のような、何が問題なのかというテーマを取り上げたい。

事業者 放送時間に関しては、実際のところニーズが特定できていない。VODに番組を登録していつでも視聴できるような方向も検討している。

委員 是非そうしていただきたい。

事業者 平日の帰宅が遅い方のために深夜の行政枠は検討したい。『ステキ+Life』では、ターゲットを女性と設定し、毎日日替わりの編成にした。だんだん視聴率が上がってきている。

事業者 データ放送はもともとNHKが開発したものである。きっかけは阪神淡路大震災の行方不明者の名前のテロップをテレビで出していたことである。テレビだと情報を得るまでに時間が経過してしまうが、データ放送であればすぐ取り出せるというメリットがある。データ放送を周知するためには、まず魅力的な番組を提供して視聴習慣をつけることが重要である。その上でデータ放送サービスを能動的に取得できることを知らせていきたい。

(視聴率について)

委員 視聴率はどうやって計っているのか。

事業者 デジタルサービスの加入者から視聴データを抽出することが可能である。ただし、J:COM チャンネルの視聴率は参考値となっている。その理由としては多チャンネル加入者以外の視聴者が多いためである。お客様に視聴率のモニターになっていただき、双方向機能でデータを取得する仕組みである。多チャンネルサービスの衛星放送番組の提供会社に視聴率を伝えて編成や宣伝活動に役立てている。テレビのみで視聴しているお客さまには、年に1回の筆記式リサーチもご協力いただいている。

(スポーツ番組について)

委員 スポーツ関係の番組が少ないようである。国民体育大会やマラソン、フットサルなども取り上げてほしい。

事業者 神奈川県では、Jリーグや小田急線沿線のエリアの少年野球の大会の番組がある。国体はCATV連盟を通して話があるため前向きに検討している。

閉会ご挨拶 活発なご意見をたくさんいただいた。これらをひとつひとつ精査していきたい。次回の放送番組審議会でもよりよいご報告ができるよう、行政の皆様にもご協力をいただきながら、できるだけ多くの事項を実現できるようにしていきたい。

以上